

# 2025年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名:koko ilo

活動名:ユースクリニック ～サードプレイス×学びの場～

## ★ 団体紹介 (結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等)

結成時期:2025年1月

構成メンバー:

・広島県内の大学に通う多様な専攻の大学生  
その他たくさんの方(看護師や助産師をはじめとする専門家の方々)にご協力いただいて活動を行っています。

結成の目的:

「性教育」を特別な授業から、  
自分らしく生きるための「日常の学び」へ  
アップデートする



## ★ 活動内容 (実施日、場所、目的、内容、参加人数等)



### 活動内容①:

「みんなの保健室」の運営と対話の場づくり

実施内容:

- ・性教育に関するパネル展示
- ・関連書籍の紹介
- ・生理用品の展示(実際に触れて比較できるコーナーの設置)
- ・専門職(看護師)による個別相談会の実施

成果と課題(振り返り):

成果:来場者の約半数が固定の学生メンバーとなり、継続的な信頼関係を築くことができた。また、来場した大人からは「子どもにどう伝えれば良いか悩んでいたの、ここに来て良かった」という切実なニーズを確認できた。

課題：応援してくれる大人の来場が多い一方で、新規の学生層へのリーチに課題が残った。性教育を「自分事」として捉えてもらうためには、従来の展示型から、より学生が主体的に参加したくなる「体験型」への工夫が必要であると痛感した。

## 活動内容②：性教育を身近にする「ワークショップ」の開発

「みんなの保健室」での気づきを活かし、性教育の入り口を広げるためのオリジナル教材およびワークシートの開発を行なった。

**未来のデザイン：ビジョンと自分を支えるもの** 1/2 氏名： \_\_\_\_\_

**STEP 1：ライフ・ビジョン**  
10年後の自分を想像してみましょう。「職業」だけでなく、「どんな生活を送り、どんな感情で過ごしているか」を軸に考えます。

Q1. 挑戦したいこと・役割

Q2. ライフスタイル・環境

Q3. 人間関係

**STEP 2：幸せのポートフォリオ**  
ビジョンを現実にするために必要な「リソース（自分を支える材料）」を整理します。優先度の高い順に3つ挙げてください。

1.

2.

3.

【例】 経済力、自由な時間、心身の健康、知識・スキル、信頼できる仲間、所属先など

**境界線（バウンダリー）の設計**  
自分の価値観と周囲の期待が衝突したとき、自分の「心の安全」をどう守りますか？

【衝突が予想されるケース】  
(例：周りの進路希望と自分の意志が違うとき)

【自分なりの境界線の引き方・対処】

「NO」と言ったり、距離を取る権利はあなた自身が持っています。

**自己の統合：生き方の「根っこ」を定める** 2/2 氏名： \_\_\_\_\_

**STEP 3：アイデンティティ・ツリー**  
自分という人間を1本の木に見立てます。表面的な目標（枝）だけでなく、それを支える土台（根）を言語化しましょう。

Leaves (枝葉)：具体的な目標・なりたい姿

Trunk (幹)：必要なリソース・スキル・習慣

Roots (根っこ)：一番大切にしたいコア・バリュー（価値観）

VISION  
RESOURCE  
CORE VALUE

木が育れないためには、深い「根（価値観）」が必要です。

**STEP 4：セルフ・リフレクション**

今の自分へのフィードバック

最初のアクション

●自分を大切にするという「教育」  
キャリア、境界線、自分を支えるもの（リソース）……これらはすべて、あなたが誰にも奪取されず、自分らしく人生を選択していくための強力な武器になります。

教材作成のポイント：

- ・多角的なターゲット設定：大人側の需要に応える「親子向け」と、学生の自律を促す「中高生向け」の2パターンを作成。
- ・体系的なステップ導入：単なる知識伝達ではなく、ステップを軸に構成。

今回紹介しているワークシートの詳しい説明

テーマ：

「未来のデザイン：ビジョンと自分を支えるもの」

中高生が自分らしく人生を選択するための学びをすることを目的としている。

STEP 1: ライフビジョン (将来どう生きたいか)

STEP 2: 同意の話 (自分と他者の境界線)

STEP 3: 価値観の整理 (自分が大切にしたいこと)

STEP 4: 対話 (他者とのコミュニケーション)

展望：

異なるテーマでも展開できるよう複数パターンのワークシートを継続して作成しており、次年度のイベントや学校現場での活用を目指す。

★ 実施に伴う効果（どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。）

1. どのような社会貢献ができたか

「性」という、普段はタブー視されがちなテーマに対し、一石を投じる活動ができたと確信している。まず、「タブー」を「大切な学び」へと変換することができたと考えている。社会的に語られにくい性教育の大切さを、一人でも多くの人に届ける機会を作ることができた。直接的なトラブル防止の報告はありませんが、何事もなく穏やかに過ごしていることこそが、予防教育としての最大の成果であると考えている。そして、自分を守る「武器」の提供ができた。イベントや教材開発を通じ、キャリアや境界線の引き方を「誰にも搾取されず、自分らしく人生を選択するための強力な武器」として提案することができた。最後に、私たち学生が、このテーマに正面から向き合い、ひたむきに活動する姿そのものが、社会に対して「性教育はポジティブで必要なものだ」という強いメッセージになったと信じている。

2. 自らの成長

当初は「何かしたい」という熱意だけで始まった活動でしたが、実践を通じて「支援のあり方」を深く学ぶことができた。まずは、「頼ること」の大切さを実感した。学生だけの行動には限界があり、専門的な知識を持つ大人の方々の協力が不可欠だった。多様な方々と議論を重ねる中で、一人で抱え込まず、信頼できる他者に頼ることの重要性を身をもって学ぶことができた。また、活動を行う中で、決めたことに対してこだわり続けるのではなく、活動を通して考え方を柔軟に変えることができたのは、私たちにとって大きな気づきとなった。そして、価値観を深める姿勢を培うことができた。ワークシート制作において「木が倒れないためには、深い価値観の根が必要である」と定義したように、私たち自身も対話を繰り返すことで、活動の根幹にある想いを言語化し、より強固なものに成長させることができた。

★ 苦労した点、今後の課題、発展の方向性など

活動を通じて最も苦労した点は、学生のみで構成されているがゆえの運営の難しさと、集客・広報の壁であった。性教育というテーマは依然として社会的な「タブー感」が強く、情報が学生の手元に届いても、そこから一歩踏み出して参加してもらうまでの心理的ハードルが非常に高いことを痛感した。広報の工夫だけでは解決できないこの「届きにくさ」こそが、当団体が向き合うべき最大の課題であると捉えている。

今後の課題は、専門的な知識の裏付けをしっかりと保ちながらも、中高生が思わず手に取りたくなるような「親しみやすさ」をどう両立させていくかという点である。単なる知識の提供ではなく、学生の心に寄り添うデザインや言葉選びをさらに追求していく必要があると考えている。

これらの課題を解決するための発展的な取り組みとして、現在は親子向け・中高生向けのワークシートを、多様なテーマに沿って展開している。将来的には、これらの内容を学校の保健の授業に取って代われるほどの質と量へ昇華させたいと考えている。まずは現在のワークシートを身近な層だけでなく、多様な現場で検証・フィードバックを繰り返し、精度を高めていくことを予定している。

★ 若者×ツナグバへの提言（改善につながるヒント、要望）

この度は、当団体の活動に多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。資金面でのご支援により活動を豊かに展開できたことはもちろん、それ以上に「若者×ツナグバ」というプラットフォームを通じて、共に高め合える仲間と出会えたことは、当団体にとって何物にも代えがたい財産となりました。

活動が停滞し、壁にぶつかった時でも、他団体のひたむきな取り組みに触れる機会があることで、「私たちもう一度頑張ろう」と前を向くことができました。地域貢献に対して熱い志を持つ同世代の仲間たちと最高の出会いを果たせたことは、若者×ツナグバが提供してくれた大きな価値であると感じています。

また、アドバイザーの先生方との交流も非常に有意義なものでした。私たち学生主体の団体は、熱意がある一方で、一度迷い始めると客観的な判断ができず、立ち止まってしまうことが多々あります。今回、大人の伴走者による客観的な視点の重要性を改めて実感したからこそ、今後は活動に行き詰まった際、オンライン等で随時相談に乗っていただけるような、より機動的なメンタリングの機会があれば非常に心強いと感じました。

若者×ツナグバが、単なる資金支援の枠を超え、若者が互いに刺激し合い、時には大人の専門的な知見を借りながら等身大で挑戦し続けられる場として、今後さらに発展していくことを期待しております。

この度は本当にありがとうございました。